



SYLLABUS

2026年度 シラバス

名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

歯科衛生学科 1年生(22期生)

HUMANITEC DENTAL HYGIENIST



∞∞ SYLLABUS 目次 ∞∞

1. からだの仕組み	1
2. 生命科学	2
3. 心理学	3
4. 英語	4
5. 解剖学	6
6. 生理学	7
7. 生化学	8
8. 口腔解剖学	9
9. 歯牙解剖	10
10. 歯牙デッサン	11
11. 組織・発生学	12
12. 口腔生理学	13
13. 病理学	14
14. 口腔病理学	15
15. 微生物学	16
16. 薬理学	17
17. 栄養学	18
18. 口腔衛生学Ⅰ	19
19. 口腔衛生学Ⅱ	20
20. 歯科衛生士概論	21
21. 歯科臨床概論	23
22. 保存修復	24
23. 歯内療法	25
24. 歯科予防処置論Ⅰ	26
25. 歯科予防処置論Ⅱ	28
26. 歯科保健指導論Ⅰ	30
27. 歯科保健指導論Ⅱ	31
28. 歯科診療補助論Ⅰ	32
29. 歯科診療補助論Ⅱ	34
30. 歯科材料	36
31. ライフデザインⅠ	37

授業名	からだの仕組み	学年	1 年次 前・後期
担当講師名	久野 淳	単位(時間数)	2単位(30時間)

■ 授業概要

生物学の目的は、生命現象のしくみを理解することにある。病気の予防・治療や自然環境との調和など多くの問題の解決には、生物学の知識が不可欠である。本講義では、「生命とは何か」というテーマから出発し、人間の体の成り立ち、仕組み、働きなどについて学ぶ。また、生物一般に成り立つ法則性を人間に適用できるか、人間は生物としていかなる特徴を持つかについて明らかにしていく。生物学の知識の習得は、歯科医学の基礎科目に位置づけられている解剖学・組織発生学・生理学などの学習を進める上でも、極めて重要である。

■ 到達目標

からだの仕組みについて理解を深めることで、歯科衛生士となるために必要となる知識を習得する。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	生命とは何か 生命の誕生	生命が共有する特徴と生命をつくる物質の構成を理解する。 生命が誕生する過程および生命体をつくる物質の起源について学ぶ。
2	生命の変遷	細胞が単細胞から多細胞に至る過程を知り、生物進化の仕組みを学ぶ。
3	細胞をつくる物質	生物の体をつくる化学物質を理解する。
4	細胞の構造	細胞膜・細胞小器官の構造と役割を学ぶ。
5	細胞の活動	酵素・ATPの特徴と役割を学ぶ。細胞呼吸、細胞の運動、細胞の分泌活動、情報伝達の仕組みについても習得する。
6	細胞の一生と個体の成り立ち(1)	細胞分裂と細胞周期の過程、および単細胞生物と多細胞生物の特徴を学ぶ。
7	細胞の一生と個体の成り立ち(2)	ヒトの組織・器官の種類と特徴を学ぶ。
8	生殖の方法	無性生殖と有性生殖の違い、減数分裂の特徴を理解する。
9	遺伝と遺伝子(1)	遺伝の法則とヒトの遺伝形質などを学ぶ。
10	遺伝と遺伝子(2)	DNAの化学的性質を理解した後、遺伝子を働かせる仕組みについて知識を深める。
11	発生の過程と仕組み	受精の特徴、胚形成について知り、三胚葉から形成される組織と器官を理解する。
12	刺激の受容と反応	ヒトの感覚器の種類と働き、および中枢神経系と末梢神経系の概要について理解する。
13	内部環境を保つ仕組み(1)	ホメオスタシスについて考え、体液、特に血液の働きを学ぶ。
14	内部環境を保つ仕組み(2)	ホルモンの種類と働きを把握した上で、自律神経とホルモンの協調作用、生体防御の仕組みについて学ぶ。
15	動物の行動と進化	動物の生得的行動と習得的行動を学び、人類の進化の過程を知る。地球環境についても知識を深める。

【評価方法】

終講試験により総合的な理解度を評価する。出席状況・受講態度についても加味する。

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「生物学」 医歯薬出版

【使用参考書】

授業名	生命科学	学年	1 年次 前期
担当講師名	久野 淳	単位(時間数)	2単位(30時間)

■ 授業概要

化学は、物質の性質・構造・変化に関する学問である。歯科衛生士は、臨床において様々な歯科材料などの物質を取り扱うことから、化学の基礎知識が不可欠である。また、生体においても、種々の化学反応により、エネルギーを得たり、体の構成成分をつくっており、化学が生命現象に深く関わっていることがわかる。授業では、最初に、原子や分子に関する基礎概念を学ぶ。後半では、有機化学について、学習を進め、有機化合物の基本的な構造・性質を理解した上で、身近な食生活を題材にして、食品に含まれる色々な成分の性質やその変化、生体内での役割について考えていく。

■ 到達目標

これまで学んできた化学について復習し、新たに生命科学について学習することで、歯科医学の基礎となる知識を身につける。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	物質とは(1)	物質を構成する基本粒子である原子・分子の基本を学ぶ。
2	物質とは(2)	周期表の概略を把握し、量の単位としてのモルを理解する。
3	物質とは(3)	イオン結合、共有結合、配位結合、水素結合などの化学結合の特徴を学ぶ。
4	気体	気体のルールを学んだ後、大気中の主な気体の性質についての知識を得る。
5	物質の溶解(1)	水溶液とは何かを考え、溶液の濃度を表すのに使われるパーセント濃度、ppm、モル濃度の計算のし方を理解する。
6	物質の溶解(2)	希薄水溶液の性質、浸透圧、コロイド溶液について学ぶ。
7	物質の溶解(3)	酸とアルカリの性質を理解した上で、水素イオン濃度とpHの関係、緩衝作用について学ぶ。
8	酸化・還元とは	酸化と還元の定義を理解し、色々な酸化剤・還元剤の反応式を書くことができるようにする。
9	化学反応	化学反応とは何かを考え、化学平衡について学ぶ。
10	有機化合物(1)	有機化合物の特徴と命名法を理解する。
11	有機化合物(2)	構造異性体と立体異性体の特徴および有機化合物の反応を学ぶ。
12	有機化合物(3)	代表的な化合物の種類と性質を学ぶ。
13	ヒトの構成要素(1)	ヒトにおける水の必要性を考え、ヒトを構成する元素の性質を把握する。
14	ヒトの構成要素(2)	糖質の分類、およびタンパク質の性質・機能を理解する。
15	ヒトの構成要素(3)	脂質の分類と脂質を構成している脂肪酸の種類を理解する。 また、核酸(DNA・RNA)の構造と機能についても習得する。

【評価方法】

終講試験により総合的な理解度を評価する。出席状況・受講態度についても加味する。

【使用教科書】歯科衛生学シリーズ「化学」 医歯薬出版

【使用参考書】

授業名	心理学	学年	1年次 後期
担当講師名	安藤 直樹	単位(時間数)	2単位(30時間)

■ 授業概要

人間の基本的な心の働きについて、その特徴を紹介します。

■ 到達目標

感覚・知覚、記憶、学習、動機づけといった心の働きについて、その基本的な特徴を述べることができる。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	心理学とは	シラバスの内容確認、心理学にまつわるエトセトラ
2	感覚①	感覚の種類、聴覚の特徴
3	感覚②	嗅覚・味覚・皮膚感覚の特徴
4	感覚③	視覚の特徴
5	知覚①	形の知覚
6	知覚②	奥行き知覚
7	知覚③	運動の知覚、知覚の恒常性
8	知覚④	錯視
9	記憶①	記憶の過程、感覚記憶、短期記憶
10	記憶②	長期記憶、忘却
11	学習①	学習とは、馴化、古典的条件づけ
12	学習②	道具的条件づけ、見通し学習、観察学習
13	動機づけ①	動機づけとは、欲求の種類、欲求の階層性
14	動機づけ②	フラストレーション、コンフリクト、フラストレーション反応
15	まとめ	授業のまとめ

【評価方法】

試験の結果によって評価します。

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「心理学」 医歯薬出版 を使用します。また、必要な資料を適宜配布します。

【使用参考書】

必要に応じて紹介します。

授業名	英語	学年	1 年次 前・後期
担当講師名	Gina Ogawa	単位(時間数)	2単位(30時間)

■ 授業概要

歯科衛生士を目指している学生に、臨床の現場を想定したリスニングとスピーキングを学ぶ内容となっています。

■ 到達目標

臨床の現場で遭遇する様々な場面において、患者対応出来る力を身に付ける。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	Introduction to English Conversation in Dental Clinic Have you visited us before?	
2	Taking a patient's name, address, telephone number Filling out a registration	
3	Making appointment: Days, dates, times	
4	Type of treatments	
5	Questions about medical history	
6	Symptoms: Asking what the problem is Asking how long the patient has had the problem	
7	Explaining treatment	
8	X-ray	
9	Giving brushing instructions Asking patients questions about brushing	
10	Giving advice: Telling patients what they should not do	
11	Understanding patient questions How to ask questions	

12	Giving advice to patient who is going to have a tooth extracted	
13	Telling a patient about medicine Giving directions to a pharmacy	
14	Explaining where to pay the cost of treatment and the price of dental product	
15	What do dental hygienists need for the job? What's a typical day for a DH?	

【評価方法】

出席状況、授業への参加態度、筆記試験と口頭試問

【使用教科書】

2週間で英語耳 歯科衛生士のための Listening Skills 医歯薬出版

【使用参考書】

- 1) The Administrative Dental Assistant
- 2) Basic Subject Dental English
- 3) Comprehensive Dental Workbook

授業名	解剖学	学年	1年次 前期
担当講師名	蜂矢 喜一郎・北村 恒康 丹羽 千春	単位(時間数)	2単位(30時間)

■ 授業概要

歯科臨床との接点に注目しながら、人体の構造の正常な形態や機能、その変化について学ぶことを目的とする。

■ 到達目標

人体の基礎的な構造と機能の理解

回数	テーマ	授業内容	教本ページ数
1	解剖学で学ぶこと	人体の構造と機能を学ぶにあたって	p1～8
2	骨格系	概説、頭蓋骨・ 体幹骨、上肢骨、下肢骨	p46～54 p56～63
3	筋と運動	概説、筋の形状と分類、体の各部位の骨格筋	p64～65 p69～79
4	消化・吸収1	消化、吸収の概要、口腔、咽頭	p84～89
5	消化・吸収2	食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜 消化の構造	p89～97
6	呼吸器系	呼吸、呼吸器系の構成。 胸郭の構造と換気の仕組み	p213～224
7	腎機能と排尿 生殖器	腎臓の働き、泌尿器の構造 生殖器	p234～238 p259～263
8	内分泌	内分泌器官とホルモン 内分泌器官の構造と機能	p246～255
9	循環 1	脈管系の概要、心臓、動脈	p109～112 p122～129
10	脈管2	動脈系、静脈系、胎児循環、リンパ管系	p140～155
11	神経系1	神経系の概要、神経系の基本構造、中枢神経系、 脳脊髄膜	p179～191 p192～195
12	神経系2	末梢神経系	p196～204
13	感覚	外皮、視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器	p161～178
14	まとめ		
15	〃		

【評価方法】

終講試験

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版

【使用参考書】

人体の不思議 第1巻～第5巻 インプット・ビジョン
「第5版 イラストでわかる歯科医学の基礎」 永末書店

授業名	生理学	学年	1 年次 前期
担当講師名	中村 江里	単位(時間数)	1単位(24時間)

■ 授業概要

生理学全般について学ぶことを目的とし、基本的には教科書(「人体の構造と機能」)に沿って進めていきます。授業時間の関係上、全ての項目において詳細な説明をすることはできないので自己学習で補って下さい。スライドを用いて、解剖学的な視点も踏まえながら進めていきますので、生体内で具体的にどういった現象が起こっているのかを理解して下さい。

■ 到達目標

人体(全身)の機能全般について理解する。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	生理学で学ぶこと・細胞	細胞の構造と機能
2	筋と運動	筋の構造と機能
3	消化・吸収	消化管の機能
4	循環(1)	血管の構造と機能
5	循環(2)	血液、心臓、循環の生理
6	神経系(1)	神経系の基本構造と基本的機能
7	神経系(2)	中枢神経系、反射と随意運動
8	感覚	感覚の性質と種類
9	呼吸	呼吸系の機能
10	腎機能と排尿	腎臓の働き、尿の生成、排尿反射
11	内分泌	内分泌器官の構造と機能、ホルモンの作用機序
12	体温	体熱の産生と放散、体温の調節、体温の変動

【評価方法】

終講試験で 60 点以上を合格とする。必要に応じてレポートの課題を与える。

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能Ⅰ解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版
「第5版 イラストでわかる歯科医学の基礎」 永末書店

授業名	生化学	学年	1年次 後期
担当講師名	山田 さやか	単位(時間数)	1単位(20 時間)

■ 授業概要

前半は、栄養学を学ぶにあたって、その基礎となる生命活動の概要、特に三大栄養素が体内で分解吸収された後、どのような変化を受け、どのようにしてエネルギーが作られるかを学習する。後半は、唾液や歯牙の構成成分やその調節機構など、歯を中心とした口腔に関する事項を、生化学的な面から学習する。

■ 到達目標

生体の構成要素を理解し、それらの代謝調節の仕組みの概要を理解する。
口腔に関して、構成する成分や代謝調節機構を他の教科と関連して、理解する。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1～3	人体の構成要素	・生命の基本単位である細胞の役割や、生体反応に欠かせない水、生体の構成成分の構造と種類について学ぶ。
4	人体における化学反応	・栄養素の消化吸収、代謝に必要な酸素や代謝の結果放出される二酸化炭素の交換、生体の化学反応の主役を担う酵素やエネルギーについて学ぶ。
5～6	糖質と脂質の代謝	・主なエネルギー源となる糖質と脂質の代謝の概要と、その代謝の各段階について、エネルギーがどのように生成されるかを学ぶ。
7	タンパク質とアミノ酸の代謝	・タンパク質はアミノ酸となって代謝され、DNAの遺伝情報に従って生合成されることを学ぶ。
8	歯と歯周組織の生化学	・歯と歯周組織の有機成分や無機成分、特にコラーゲンやヒドロキシアパタイトについて、その成り立ちや働きについて学ぶ。
9	硬組織の生化学 唾液の生化学	・歯や骨の石灰化のしくみと、それらの中心となるカルシウムとリンの代謝調節機構を学ぶ。 ・唾液の化学組成と機能について学ぶ。
10	プラークの生化学	・プラークの働きやプラークによるう蝕と歯周疾患の発症機構を学ぶ。

【講義方法】

教科書中心に授業を進め、各項目について、まとめと資料のプリント作成

【評価方法】

終講試験

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能 2 生化学・口腔生化学」医歯薬出版

【使用参考書】

学建書院 スタンダード生化学・口腔生化学 第2版、学建書院 口腔生化学サイドリーダー 第4版

授業名	口腔解剖学	学年	1年次 前期
担当講師名	寺島 良治	単位(時間数)	1単位(16時間)

■ 授業概要

頭頸部の諸器官の肉眼的な形態、構造および相互の位置関係を理解するとともに、諸器官の機能についても形態学的に把握する。特に口腔とその周辺の構造を中心に深める。

■ 到達目標

口腔とその周辺のしくみを理解する。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	概論	固有口腔並びに口腔前庭のしくみを学ぶ。
2	骨学 1	下顎骨、上顎骨、側頭骨、蝶形骨を中心に理解する。
3	骨学 2	
4	筋学	表情筋と咀嚼筋のちがいを理解する 口腔周辺の表情筋を理解する。 咀嚼筋の起始、停止を理解し、下顎骨の運動を学ぶ。
5	内臓学	顎関節や舌の構造を学ぶ
6	脈管学	上甲状腺動脈、舌動脈、顔面動脈、顎動脈について学ぶ。
7	神経学	表情筋と咀嚼筋の運動支配を理解する。 顔面の知覚について理解する。
8	まとめ	骨学・筋学・内臓学・脈管学・神経学をまとめて口腔の仕組みとして理解する。

【評価方法】

終講試験、及び授業態度

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版

【使用参考書】

特に無し

授業名	歯牙解剖	学年	1年次 前期
担当講師名	丹羽 千春	単位(時間数)	1単位(16時間)

■ 授業概要

歯科衛生士に必要な基本的な歯の知識を学習し、歯の形態と役割を理解していく。

■ 到達目標

歯の形態と役割を理解し、歯の鑑別方法を理解することを目標とする。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	歯の解剖学(総論)	歯の生物学的特性、記号、用語を理解する。
2	切歯	切歯の形態と役割を理解する。
3	犬歯	犬歯の形態と役割を理解する。
4	小臼歯	小臼歯の形態と役割を理解する。
5	大臼歯	大臼歯の形態と役割を理解する。
6	乳歯	乳歯の特徴、永久歯との違いを理解する。
7	歯の鑑別	上下顎、左右側、順位の鑑別を理解する。
8	歯の異常、歯列と咬合	歯の異常、歯の配列と咬合を理解する。

【評価方法】

終講試験

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版

【使用参考書】

「第5版 イラストでわかる歯科医学の基礎」 永末書店

授業名	歯牙デッサン	学年	1年次 後期
担当講師名	丹羽 千春	単位(時間数)	1単位(16時間)

■ 授業概要

歯の図示により、各歯の形態的特徴を三次元的に理解し、歯の鑑別(上下顎、左右側、順位の鑑別)を行う。

■ 到達目標

歯の形態的特徴を三次元的に理解し、歯の鑑別ができるようになることを目標とする。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	歯・歯周組織の構造の図示	歯の計測方法を理解する。 歯・歯周組織の構造の図示を行い、提出する。
2	歯の計測 上顎中切歯の図示(1)	歯の計測方法を理解する。 上顎中切歯の図示を行う。
3	上顎中切歯の図示(2)	上顎中切歯の図示を完成して提出する。
4	上顎第一大臼歯の図示(1)	上顎第一大臼歯の図示を行う。
5	上顎第一大臼歯の図示(2)	上顎第一大臼歯の図示を完成して提出する。
6	下顎第一大臼歯の図示(1)	下顎第一大臼歯の図示を行う。
7	下顎第一大臼歯の図示(2)	下顎第一大臼歯の図示を完成して提出する。
8	歯の鑑別	歯の鑑別(上下顎、左右側、順位の鑑別)を行い配列する。

【評価方法】

課題の評価と終講試験

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版

【使用参考書】

「第5版 イラストでわかる歯科医学の基礎」永末書店

授業名	組織・発生学	学年	1年次 後期
担当講師名	蜂矢 喜一郎・北村 恒康 丹羽 千春	単位(時間数)	1単位(16時間)

■ 授業概要

ヒトの体を構成する細胞、組織、器官の関係を理解し、個体発生の過程を学ぶ。歯周疾患や齲蝕と口腔の組織との関連、先天異常と発生の関係など臨床上必要な事項を理解する。

■ 到達目標

歯と歯周組織の発生、構造および機能について理解することを目標とする。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	細胞	細胞の構造を理解する。(1冊目 P12～21)
2	上皮組織と支持組織	組織の種類(上皮組織、結合組織の構造)を理解する。 (1冊目 P21～30)
3	発生(1)	染色体と減数分裂、精子と卵子の発生、受精と着床、胚葉の形成、胎児の成長と発育(1冊目 P31～44)
4	顔面と口腔の発生	顔面・口腔の発生と鰓性器官の発生を理解する 鰓弓の形成、突起の形成と癒合、口蓋の形成、舌の形成、腺の形成 (2冊目 P170～179)
5	歯と歯周組織の発生	歯の発生を理解する 先行歯の発生、代生歯および加生歯の発生 歯の萌出、歯の脱落と交換 歯の萌出の臨床的考察 (2冊目 P180～190)
6	歯および歯周組織の構造と機能1	歯冠を形成する硬組織(エナメル質、象牙質)と歯髓の構造を理解する(2冊目 P135～152)
7	歯および歯周組織の構造と機能2	歯周組織(セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯肉)の構造を理解する。(2冊目 P153～167)
8	まとめ	組織学・発生学のまとめ

【評価方法】

終講試験成績による評価

【使用教科書】

1冊目: 歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1解剖学・組織発生学・生理学」医歯薬出版

2冊目: 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版

【使用参考書】

なし

授業名	口腔生理学	学年	1 年次 前期
担当講師名	中村 浩二	単位 (時間数)	1 単位 (16 時間)

■ 授業概要

口腔生理学は、健全な顎・口腔の健康を保つための諸機能についてのメカニズムを解明する学問である。口腔の機能の特徴は、口が消化器の入り口として、また、呼吸器官、発声器官、感覚器官として多面的な働きをすることである。本講義では、歯・咀嚼・唾液分泌・味覚・口腔感覚・発声の生理について理解することを目的とする。

■ 到達目標

口腔機能について詳細に理解する。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	歯と口腔の感覚	歯の感覚と口腔粘膜の感覚について学ぶ。
2	味覚と嗅覚	味覚の役割を考えた後、味覚の受容器・神経機構・味覚障害について学習する。嗅覚については、嗅覚の特性と役割、嗅覚器について学ぶ。
3	咬合と咀嚼①	咬合に関する専門用語を習得し、基本的な下顎位の種類、下顎の運動について学ぶ。
4	咬合と咀嚼②	下顎の動きを制御する四つの顎反射を理解する。
5	咬合と咀嚼・吸啜	咀嚼の意義を考え、咀嚼時の下顎運動および咀嚼能力の評価方法を学ぶ。吸啜については、乳児の摂食行動における各種反射を理解する。
6	嚥下と嘔吐	摂食・嚥下の5期を理解した上で、嚥下の概要と食塊の動きを学ぶ。また、嘔吐の機序および神経機構について学ぶ。
7	発声 唾液①	発声機構の概要を知り、歯・口腔の病態が発音に及ぼす影響について考える。 唾液腺の種類と唾液の分泌機構を学ぶ。
8	唾液②	唾液の性状と成分および機能を学び、唾液と疾患の関連性についても理解する。

【評価方法】

終講試験により60点以上を合格とする。

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
医歯薬出版

授業名	病理学	学年	1年次 後期
担当講師名	鈴木 佳弘	単位(時間数)	1単位(16時間)

■ 授業概要

口腔疾患およびその関連領域の疾患を理解するために、全身の組織、臓器に生じる疾患の本態を教授することによって、口腔疾患の予防、診断に関する歯科衛生士が必要とする臨床歯科医学の基礎を養う。

■ 到達目標

病気というものについての基本的事項、すなわち種々の組織や臓器に現れる同じ種類の病変を理解する。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	病理概説 (1)	・病理学概論
2	病理概説 (2)	・病因論
3	病理概説 (3)	・代謝障害
4	病理概説 (4)	・増殖と修復
5	病理概説 (5)	・循環障害
6	病理概説 (6)	・炎症
7	病理概説 (7)	・免疫
8	病理概説 (8)	・腫瘍 ・先天異常

【評価方法】

ペーパーテストと授業態度によって評価を行なう

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 医歯薬出版

【使用参考書】

授業名	口腔病理学	学年	1年次 後期
担当講師名	久保勝俊	単位(時間数)	1単位(16時間)

■ 授業概要

口腔疾患およびその関連領域の疾患を理解するために、口腔の組織、臓器に生じる疾患の本態を教授することによって、口腔疾患の予防、診断に関する歯科衛生士が必要とする臨床歯科医学の基礎を養う。

■ 到達目標

口腔領域のいろいろな組織や臓器に発生する病変を理解する。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	口腔病理 (1)	歯の発育異常を説明できる。 歯の損傷と着色・付着物を説明できる。
2	口腔病理 (2)	う蝕を説明できる。 象牙質・歯髄複合体の病態を説明できる。
3	口腔病理 (3)	歯周組織の病態を説明できる。
4	口腔病理 (4)	口腔粘膜の病変を説明できる。
5	口腔病理 (5)	口腔領域の嚢胞と腫瘍を説明できる。
6	口腔病理 (6)	口腔癌を説明できる。 顎骨の病変を説明できる。
7	口腔病理 (7)	唾液腺の病変を説明できる。 口腔領域の奇形を説明できる。
8	口腔病理 (8)	口腔組織の加齢変化を説明できる。 総括

【評価方法】

ペーパーテストによって評価を行なう。

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 医歯薬出版

【使用参考書】

授業名	微生物学	学年	1 年次 後期
担当講師名	安達 啓子	単位(時間数)	2単位(30時間)

■ 授業概要

微生物学とは、微生物がどのようにヒトに感染し、病気を引き起こすかということを明らかにする学問である。口腔の 2 大疾患であるう蝕と歯周疾患はいずれも微生物が原因であり、その「成り立ちを知る」ことが治療にも予防にも重要である。その際、個々の微生物の病原性を理解することはもちろん、病気になる側の防御能(免疫)についても知る必要がある。本授業では微生物の定義から始まり、これらによって引き起こされる様々な反応(感染・免疫)を理解し、歯科衛生士として必要な知識の習得を目的とする。

■ 到達目標

細菌とウイルスを中心に様々な微生物の性状や病原性を学習し、感染症の治療や予防対策に役立てることを目標とする。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1・2	微生物概論	微生物の大きさ・形状 微生物の分類・構造
3・4	感染と感染症	感染・感染症の定義と種類
5・6	病原微生物	主な病原性細菌・ウイルスの性状と具体的病原性
7	宿主防御機構と免疫 1	免疫概論
8	宿主防御機構と免疫 2	液性免疫と細胞性免疫
9	口腔微生物 1	バイオフィルムとしてのプラーク
10	口腔微生物 2	う蝕病原微生物
11	口腔微生物 3	歯周病病原微生物
12	口腔微生物 4	その他の口腔感染症 口腔微生物まとめ
13・14	実習	口腔内細菌の観察 空中落下細菌採取
15	宿主防御機構と免疫 3 と まとめ	アレルギー反応

【評価方法】

終講試験の点数に授業中に行う小テストの平均点を加算する

【使用教科書】

最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学

【使用参考書】

授業名	薬理学	学年	1 年次 後期
担当講師名	安達 啓子	単位(時間数)	2単位(30時間)

■ 授業概要

高齢化社会にともない、歯科を受診する患者さんの中には医科で処方された薬を服用している人が多くなっている。患者さんが服用している薬がどのような薬なのか、またその患者さんに対して注意することは何かという知識が必要となる。薬を勉強する薬理学はカタカナ横文字が多く、苦手とする学生さんは少なくない。そのため授業のコンセプトを「楽しく」「分かりやすく」「臨臨床的」にし、薬理学の基本的知識を無理なく学習できるように心がけた。

■ 到達目標

歯科疾患に使用される薬剤だけでなく、全身疾患とその治療薬の基本的知識・応用方法を理解できるようになる。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	薬剤の名称と取り扱い	第1回は目に見え理解しやすい薬剤の剤形や保存方法を学ぶ
2	血液に作用する薬剤	出血性素因のある患者さんの抜歯時に注意すべき対応法を考える
3	抗感染症薬	急性根尖性歯周炎の患者さんに応用される薬剤を考える
4	消毒に使用する薬	B型肝炎・AIDSの患者さんに使用した器具を消毒する薬剤を考える
5,6	炎症と薬	シェーグレン症候群・アフタ性口内炎の患者さんに応用される薬剤を考える
7	薬物の作用	ED ₅₀ , LD ₅₀ , 治療係数を理解する
8	循環器・免疫・代謝に作用する薬物	降圧剤・骨粗鬆症治療薬・抗アレルギー薬の薬理作用と副作用を理解する
9	中枢神経・末梢神経に作用する薬物	交感神経と副交感神経の作動薬・遮断薬とその受容体を理解する
10	局所麻酔薬	局所麻酔薬に血管収縮薬を添加する理由を考える
11	歯内療法薬	歯髄保存療法と根管治療に用いる薬剤を理解する
12	歯周疾患・顎口腔粘膜疾患治療薬	歯周治療・歯性感染症・口腔粘膜疾患に用いる薬剤を理解する
13	薬物の動態	初回通過効果と生物学的利用能を理解する
14	薬物の連用と併用・副作用	薬物の連用と併用・副作用を理解する
15	医薬品を適応する際の注意	対象者別の服薬指導を考える

【評価方法】

終講試験の点数に授業中に行う小テストの平均点を加算する

【使用教科書】

最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版

【使用参考書】

授業名	栄養学	学年	1 年次 後期
担当講師名	牧田 ゆり	単位(時間数)	2 単位(30 時間)

■ 授業概要

現代の食生活がどのような状況にあり、現在どのような問題点があるか、また、健康はさまざまな栄養素が相互に関係し合いながら保たれていることを学習する。

栄養学の基礎を学ぶ。栄養素(栄養素の種類と働き)・消化吸収の仕組みを理解する。

日本人の食事摂取規準を重要性。ライフステージでの栄養の重要ポイントを学ぶ。

栄養学を通じて食生活の重要性を認識させる。歯科診療補助の一環として食生活の改善を必要とする対象者にわかりやすく指導できるように、知識を得る。

■ 到達目標

国家試験にむけた、栄養学の基礎を理解する。

栄養学を実生活(生活習慣の予防・咀嚼の重要性)などの様々なライフステージで健康指導ができるようになる。

食生活と、歯周疾患の関連性を理解する

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1・2	栄養学の概念 食品の分類 食事バランスガイド 食の配膳 栄養の基礎知識	栄養・食生活の現状と問題点 食品群と栄養素による分類 食事バランスガイドの意味 食の配膳と栄養素 五大栄養素 水の重要性
3・4	栄養素の種類と働き	糖質の種類と体内での働き 食物繊維の種類と体内での働き 脂質の種類と体内での働き タンパク質の種類と働き
5・6		ビタミンの種類と働き 無機質の種類と働き
7・8	栄養素の消化・吸収	消化器官のしくみ 消化の種類 消化の過程 消化のメカニズム・栄養素の消化吸収
9・10	食生活指針 日本人の食事摂取規準 生活習慣病 食品の表示	健康増進法 健康日本21 食事摂取規準の見方。 推定エネルギー必要量 BMI の出し方 生活習慣病と食事療法 特別用途食品・保健機能食品
11・12	ライフステージと栄養	妊娠期における栄養 授乳期における栄養 乳児期における栄養 離乳期の栄養 幼児期における栄養 う蝕と甘味・甘味料
13・14	ライフステージと栄養	学童期・思春期における栄養 飲み物と糖度 成人期における栄養 高齢期における栄養 咀嚼・嚥下
15	ライフステージと栄養	スマイルケア食 高齢期の主な疾患と栄養ケア 低栄養・フレイル・サルコペニア・

【評価方法】

終講試験(本試験・追再試験)、單元ごとに問題作成(まとめプリント)

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能3 栄養学」医歯薬出版

【使用参考書】

新食品成分表 FOODS 東京法令出版

授業名	口腔衛生学Ⅰ	学年	1年次 前期
担当講師名	伊藤 恭子 島中 瑞季	単位(時間数)	2単位(30時間)

■ 授業概要

それぞれの個人が「健康」を保持増進していくように導く理論と方法を医学的な立場から取り扱うのが衛生学である。そのなかで歯・口腔は特異な分野であるのでこれらの衛生学を口腔衛生学という。

歯科衛生士はそれぞれ異なった日常生活をしている人々の歯・口の健康を保つための理論・技術を臨床の場で実施していくための重要な役割を担っている。したがって、歯科臨床や公衆歯科衛生に関する基本的知識と具体的な手段と技術を習得することを目的とする。

■ 到達目標

- ・ライフステージごとの口腔保健管理について理解する。
- ・歯と口腔の健康について理解する。
- ・う蝕の発生と進行について理解する。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1・2	歯・口腔の健康	歯・口腔の構造と機能を学ぶ。
3	歯・口腔の付着物・沈着物	プラークや歯石について学ぶ。
4	歯科疾患の疫学	う蝕・歯周病の疫学的特徴を学ぶ。
5	口腔清掃	口腔清掃の意義・種類について学ぶ。 歯磨剤の種類・組成を学ぶ。
6・7	う蝕	う蝕の発生とメカニズムを学ぶ。
8	健康に関わる地域の役割	地域社会と地域健康の概念を学ぶ。
9	ライフステージごとの口腔保健管理	母子保健を学ぶ。
10	ライフステージごとの口腔保健管理	学校保健を学ぶ。
11	ライフステージごとの口腔保健管理	成人保健を学ぶ。
12	ライフステージごとの口腔保健管理	産業保健を学ぶ。
13	ライフステージごとの口腔保健管理	高齢者保健を学ぶ。
14	ライフステージごとの口腔保健管理	精神保健を学ぶ。
15	まとめ	口腔衛生学Ⅰのまとめ

【評価方法】

終講試験、授業態度、出席、小テスト

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」 医歯薬出版
 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 医歯薬出版

【使用参考書】

授業名	口腔衛生学Ⅱ	学年	1年次 後期
担当講師名	伊藤 恭子・武藤 昭紀	単位(時間数)	2単位(30 時間)

■ 授業概要

それぞれの個人が「健康」を保持増進していくように導く理論と方法を医学的な立場から取り扱うのが衛生学である。そのなかで歯・口腔は特異な分野であるのでこれらの衛生学を口腔衛生学という。

歯科衛生士はそれぞれ異なった日常生活をしている人々の歯・口の健康を保つための理論・技術を臨床の場で実施していくための重要な役割を担っている。したがって、歯科臨床や公衆歯科衛生に関する基本的知識と具体的な手段と技術を習得することを目的とする。

■ 到達目標

- ・う蝕、歯周病などの口腔疾患の予防の概念を理解し、基本的知識の習得を目標とする。
- ・フッ化物についての基礎知識を習得することを目標とする。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1～5	歯周疾患の予防	歯周病診断と分類を学ぶ。 歯周病メカニズムを学ぶ。 歯周病の予防法を学ぶ。
6・7	その他疾患の予防 ライフステージにあわせた予防	口内炎、口腔癌、不正咬合等を学ぶ。 ライフステージにあわせた予防を学ぶ。
8～10	う蝕の予防	う蝕診断と分類を学ぶ。 う蝕のメカニズムを学ぶ。 臨床的予防法を学ぶ。 う蝕活動性試験を学ぶ。
11～14	フッ化物応用	フッ化物のメカニズムと予防法を学ぶ。 フッ素濃度の計算を学ぶ。
15	まとめ	口腔衛生学Ⅱのまとめ

【評価方法】

終講試験、授業態度、出席、小テスト

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」医歯薬出版
歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」医歯薬出版

【使用参考書】

授業科目名	歯科衛生士概論	学年	1年次 前・後期
担当講師名	加藤直美・横井基夫 久野 淳・専任教員	単位(時間数)	2単位(30時間)

■ 授業概要

歯科衛生業務を実践して人びとの健康づくりを支援する者となる為、保健医療人としての基本的態度について理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および倫理的思考法の基礎を習得する。また人びとのニーズに合った支援内容を提供する為に、論理的に思考し、問題発見・解決する技術や知識を習得する。

■ 到達目標

医療専門職としての意義を見つけ、歯科衛生業務の考え方や行動の仕方を理解し、歯科衛生士としての専門的知識・技術ならびに態度を身に付けていくことを目指す。

授業計画

回数	テーマ	講義内容
1	歯科衛生学を学ぶにあたって 歯科衛生学とは	歯科衛生士は何をする 歯科衛生学を学ぶ目的 歯科衛生の定義 歯科衛生学の体系
2	歯科衛生の歴史と現況	歯科衛生の誕生と経緯 歯科衛生士の養成教育 歯科衛生実践の現況
3	歯科衛生と健康	健康の考え方 生活習慣と健康 健康増進への関与
4	歯科衛生士法と関係する法規 保健・医療・福祉の制度	歯科衛生士法の位置づけ 関係法規 法的責任と制度 歯科衛生活動の特徴 歯科衛生活動に関連する制度・法律 地域包括ケアシステム
5	歯科衛生士と倫理	倫理の必要性 絵の倫理と患者の権利 患者の自己決定権 倫理綱領
6	歯科衛生実践のための理論	理論の考え方と活用法 健康行動に関する理論・モデル ヒューマンニーズ理論
7	歯科衛生実践の展開	歯科衛生士として求められる能力 歯科衛生過程
8	歯科衛生士の国際化	国際活動の意義 健康と歯科保健の世界的課題 国際保健医療協力の仕組み
9	組織活動	歯科衛生士の専門職組織 日本歯科衛生士会 日本歯科衛生学会 日本歯科衛生教育学会 国際歯科衛生士連盟 専門学会における歯科衛生士の学習機会

10	医療安全確保における歯科衛生士の役割	医療安全に関する法律 安全管理の必要性 感染予防対策
11	チームアプローチにおける多職種連携	歯科衛生士の実践的な活動領域と役割 多職種連携に関わる職種
12	災害時における歯科衛生活動	わが国の災害と歯科 災害時の歯科保健医療活動 災害への備え
13	歯科衛生士のキャリア形成	キャリア形成の必要性と方法 生涯学習 歯科衛生研究
14	歯科衛生学概論 まとめ	
15	終講試験対策	

【評価方法】 授業態度・授業中の確認テスト及び終講試験の総合評価	
【使用教科書】 歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学概論」 医歯薬出版	
【使用参考書】 デンタルハイジーン・歯科衛生士・DHstyle・等	

授業名	歯科臨床概論	学年	1年次 後期
担当講師名	瀧井泉美	単位(時間数)	2単位(30時間)

■ 授業概要

歯科衛生士に必要な歯科臨床の基礎的な知識を得て、今後の学習への動機付けにする。

歯科衛生士の働く場は、歯科臨床つまり歯科診療の現場がほとんどです。

歯科衛生士は、歯科診療の当事者としての役割を担うので、専門職として総合的な知識と技術が求められます。この授業では、専門分野で使う用語に始まり、臨床に関する各領域の概要と、その関連を総合的に学びます。

■ 到達目標

この歯科臨床概論では、個々に分化した専門科目を学ぶ前に、まず保険制度を含む歯科医療全般について概要を知ることが目的です。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	歯科医療	医療の中の歯科医療について学ぶ。コデンタルスタッフとしての役割を知る。歯科診療所の特殊性を知る。
2	歯科診療所	
3	歯科業務と社会保険制度	歯科診療所の構成。社会保険制度について知る。カルテの役割を学ぶ。
4	歯科診療の流れ	
5	保険医療機関と医療安全	歯科治療の流れを知る。保険医療の仕組みについて学ぶ。医療コミュニケーションについて学ぶ。
6	日本の医療問題・歯科の特殊性とライフステージ	
7	検査・口腔内観察	口腔内の検査と口腔内所見 歯周療法について学ぶ。歯周ポケットについて学ぶ。
8	歯周療法	
9	歯科保存学（修復・歯内）	歯科保存について学ぶ。 抜歯・口腔外科処置について学ぶ。
10	口腔外科・口腔先天異常	
11	小児歯科・矯正歯科	小児歯科・歯科矯正の診療を知る。 口腔機能維持のための歯科補綴学について学ぶ。
12	歯科補綴	
13	障がい者歯科治療	障がい者歯科医療について学ぶ。 高齢者に特有の歯科治療について学ぶ。
14	高齢者歯科	
15	新しい歯科治療	新しい歯科治療法を知る。レーザーおよび口臭治療について学ぶ。

【評価方法】

筆記試験および小テストによる。

【使用教科書】

「歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版」 医歯薬出版

【使用参考書】

授業名	保存修復	学年	1年次 後期
担当講師名	小田切ゆかり 大鹿水由季・遠藤悠太	単位(時間数)	1単位(16時間)

■ 授業概要

歯の硬組織に生じる様々な疾患の病態について知り、これら硬組織疾患検査法と治療法について学ぶ。硬組織疾患の対処法は診査・診断が重要となり、治療は最小限の侵襲に留めねばならない。また治療後も再発を防ぐためにメンテナンスが重要となる。このようなことから硬組織疾患の対処では歯科衛生士の役割が重要となる。

したがって本講義では、歯科衛生士として熟知していなければならない硬組織疾患の対処法についての知識の習得を目標とする。

■ 到達目標

歯の硬組織に生じる様々な疾患の病態を理解し、その治療方法やその前処置について説明できる。治療および治療後のメンテナンスにおける歯科衛生士の役割を理解する。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	口腔内検査 修復治療の種類	・口腔内検査の基礎知識および修復治療の種類を理解する。
2	う蝕の特徴・分類、 う蝕以外の硬組織疾患	歯の硬組織疾患の種類と病態について学ぶ。
3	保存修復治療の概要と治療の流れ 修復前準備①	・硬組織疾患の治療方法の概要とその流れについて学ぶ。
4	修復前準備② 切削器具	・修復前準備法の種類と方法について学ぶ。 ・歯の切削に用いられる機械・器具の種類と特徴について学ぶ。
5	コンポジットレジン修復①	・コンポジットレジンの特徴とその接着機構について学ぶ。
6	コンポジットレジン修復② グラスアイオノマー修復	・コンポジットレジン修復における実際の臨床症例から、その適応症と術式に関する理解を深める。 グラスアイオノマー修復の特徴について学ぶ。
7	歯の漂白	・歯の漂白、PMTC 等の審美歯科領域における治療の特徴を学ぶ。
8	間接法修復の種類と特徴 補修修復	・インレー修復やその他の間接修復の特徴や接着・合着セメントについて学ぶ。 ・補修修復について学ぶ。

【評価方法】

終講試験(本試験・再試験)

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」医歯薬出版

【使用参考書】

授業名	歯内療法	学年	1年 後期
担当講師名	橋岡 和子	時間数	1 単位 (16 時間)

■ 授業概要

歯内療法学とは、齲蝕、外傷などの硬組織疾患、それに継発する歯髄疾患や根尖性歯周組織疾患の予防、治療および研究を行う学問である。歯内治療を行うことにより、上記の疾患に罹患した歯を形態的にも機能的にも咬合器官として健康な状態に回復し、生体内に保持することを目的としている。臨床歯科学の基礎となるため、的確な診断と治療が必要である。

■ 到達目標

- 1) 歯髄疾患と根尖性歯周組織疾患の概要および治療術式の概要を説明できる。
- 2) 歯内療法における歯科衛生士の役割、治療時に使用する薬剤および機材を説明できる。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	歯の保存療法および歯内療法の概要 (P.2～P.13 P.118～P.123)	歯内療法学の意義・目的および歯内疾患(主な疾患)の概要と原因を説明する。
2	歯髄疾患と根尖性歯周組織疾患の概要と歯髄保存療法(P.123～P.147)	歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の分類、症状および処置法の概要を説明する。 歯髄鎮痛消炎療法と覆髄法を説明する。
3	歯髄の除去療法(P.148～P.155)	生活断髄法と抜髄法を説明する。
4 5 6	(感染)根管治療の基本概念と術式 (P.156～P.178) 根管充填および根末完成歯の根管治療 (P.178～P.192)	(感染)根管治療の基本概念と術式を説明する。 根管充填法および使用器材を説明する。 根末完成歯の根管治療を説明する。
7	外科的歯内療法(P.193～P.203) 歯の外傷および歯内療法における安全対策 (P.204～P.213)	外科的歯内療法の目的、術式を説明する。 歯の外傷および歯内療法における安全対策を説明する。
8	歯内療法における歯科衛生士の役割 (P.214～P.217)	歯内療法における歯科衛生士の役割を説明する。

【評価方法】

終講試験による

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」医歯薬出版

【使用参考書】

授業名	歯科予防処置論 I	学年	1年次 前期
担当講師名	専任教員	単位(時間数)	2単位(60時間)

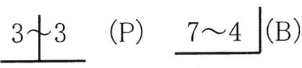
■ 授業概要

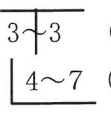
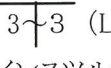
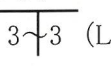
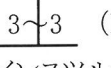
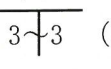
歯科予防処置は歯科衛生士の業務の中で重要な仕事の 1 つである。歯肉炎や歯周炎の発症する歯周組織、その原因であるプラークや歯石、歯肉炎・歯周炎への経過などをしっかり理解し、治療法の 1 つである歯石除去法について学ぶ。基礎学習だけでなく、歯石除去に使用する器具・器材を、正しく確実に使用できるように訓練することが大切であり目標である。また実習では、臨床で生かせるよう、先の事を考えながら行動できる練習をする。

■ 到達目標

基礎学習の習得及びそれに付随する正確な実技習得、歯科衛生士としての心構えを身につけることを目標とする。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1.2	予防処置オリエンテーション 1.3 年生の合同相互実習	歯科衛生アセスメントとしての情報収集
3.4	歯科予防処置論の概要 口腔の基礎知識 ファントームの取り扱い 顎模型の取り扱い	歯科予防処置の定義 歯科予防処置論の考え方 歯科予防処置の法的な位置づけ 予防の概念 正常な口腔 ファントームの設置方法 顎模型の取り扱い方法
5.6	インスツルメント(基本セット)の取り扱い ファントームの取り扱い技能評価	ミラー、探針、ピンセットの用途 インスツルメントの把持方法 綿球とコットンロールの操作 術者と患者のポジショニング(上顎の応用姿勢、下顎の応用姿勢、水平位の定義)
7.8	歯周病の基礎知識	口腔の付着物・沈着物 プラーク、歯石、歯周病
9.10	インスツルメント(基本セット)操作①  (P) 7~4 (B)	基本セットの操作 ミラー、探針、ピンセットの用途 インスツルメントの把持方法 綿球とコットンロールの操作 術者と患者のポジショニング(上顎の応用姿勢、下顎の応用姿勢、水平位の定義) 術式の理解(設定～防湿・乾燥～探査) 歯牙の特徴

11.12	スケーラーの基礎知識 インスツルメント(基本セット)操作②	手用スケーラー(基礎知識) 構成、把持、原則、運動操作(前腕回転運動・手指屈伸運動・手根関節運動) インスツルメント(基本セット)操作
13.14	シクルスケーラー操作①  (Li) 探査まで 4～7 (B) 探査まで インスツルメント(基本セット)操作③	術式の理解(設定～防湿・乾燥～探査～操作) 運動操作(前腕回転運動) インスツルメント(基本セット)操作
15.16	シクルスケーラー操作②  (Li 手指) 4～7 (B M) インスツルメント(基本セット)操作④	術式の理解(設定～防湿・乾燥～探査～操作) 運動操作(手指屈伸運動) インスツルメント(基本セット)操作
17.18	シクルスケーラー操作③  (La 前腕) 4～7 (B C) インスツルメント(基本セット)操作⑤	術式の理解(設定～防湿・乾燥～探査～操作) 部位別操作(前歯部・臼歯部) インスツルメント(基本セット)操作
19.20	シクルスケーラー操作④  (P)プレ 4～7 (B D) インスツルメント(基本セット)操作⑥	術式の理解(設定～防湿・乾燥～探査～操作) 運動操作(手根関節運動) 部位別操作(前歯部・臼歯部) インスツルメント(基本セット)操作
21.22	インスツルメント(基本セット)操作 技能評価	技能評価
23.24	インスツルメント(基本セット)操作 フィードバック シクルスケーラー操作⑤	評価のフィードバック 部位別操作(前歯部・臼歯部)
25.26	シクルスケーラー操作⑥  (Li) 4～7 (B)	術式の理解(設定～防湿・乾燥～探査～操作) 部位別操作(前歯部・臼歯部)
27.28	シクルスケーラー操作技能評価	技能評価
29.30	シクルスケーラー操作フィードバック	評価のフィードバック

【評価方法】

終講試験 100%

(身だしなみ、忘れ物、提出物(レポート含む)、出欠状況、授業態度 技能習得は別途評価)

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版」医歯薬出版

【使用参考書】なし

授業名	歯科予防処置論Ⅱ	学年	1年次 後期
担当講師名	専任教員	単位(時間数)	2単位(60時間)

■ 授業概要

歯科予防処置は歯科衛生士の業務の中で重要な仕事の1つである。歯肉炎や歯周炎の発症する歯周組織、その原因であるプラークや歯石、歯肉炎・歯周炎への経過などをしっかり理解し、治療法の1つである歯石除去法について学ぶ。相互実習では先の事を考えて行動し、安全かつ素早い技術を身につける。生体に対しての配慮や声掛け、コミュニケーションも同時に学び身につける。

また、う蝕予防処置としてう蝕活動性試験から得られる情報から分析することや、フッ化物応用法についても学ぶ。

■ 到達目標

基礎学習の習得及びそれに付随する正確な実技習得を目標とする。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1.2	インスツルメント(基本セット)操作 技能評価 2回目	インスツルメント技能評価
3.4	超音波スケーリング①	超音波スケーラーの基礎知識 術式の理解(設定～準備～操作) ユニットでの患者設定方法
5.6	超音波スケーリング②	術式の理解(設定～準備～操作) 部位別操作(前歯部・臼歯部)
7.8	超音波スケーリング③	術式の理解(設定～準備～操作) 部位別操作(前歯部・臼歯部)
9.10	相互実習オリエンテーション①	相互実習における心構え 清潔不潔の理解 口腔内の正常・異常の見分け方
11.12	相互実習オリエンテーション② 1・2年生の合同相互実習	相互実習における心構え 清潔不潔の理解
13.14	相互実習オリエンテーション③ 相互実習	相互実習における心構え 清潔不潔の理解 口腔内観察と口腔内診査
15.16	歯科衛生アセスメント① 相互実習	情報収集方法 患者誘導、器具の準備方法、共同動作
17.18	歯科衛生アセスメント② 相互実習	情報収集方法 患者誘導、器具の準備方法、共同動作
19.20	シクルスケーラー操作① 相互実習	術式の理解(設定～防湿・乾燥～探査～操作) 部位別操作(前歯部・臼歯部)
21.22	シクルスケーラー操作② 相互実習	術式の理解(設定～防湿・乾燥～探査～操作) 部位別操作(前歯部・臼歯部)

	衛生器具の準備技能評価	
23.24	シックルスケーラー操作技能評価 2 回目	シックルスケーリング技能評価
25.26	う蝕活動性試験	う蝕活動性試験について 検査方法と培養時間および評価方法
27.28	う蝕予防処置	フッ化物について 使用量の計算、フッ化物の種類
29.30	インスツルメント(基本セット)操 作・シックルスケーラー操作技能 評価 3 回目	インスツルメント・シックルスケーリング技能評価

【評価方法】

終講試験 100%

(身だしなみ、忘れ物、提出物(レポート含む)、出欠状況、授業態度 技能習得は別途評価)

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版

【使用参考書】

なし

授業名	歯科保健指導論 I	学年	1 年次 前期
担当講師名	専任教員	単位(時間数)	1 単位(30時間)

■ 授業概要

歯科保健指導は、歯科衛生士にとって重要な仕事の一つであり、幅広く基礎知識及び専門的な知識が必要とされる。

健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を取得する。

■ 到達目標

人の人生の各ステージにおける全身・口腔・社会的生活の特徴を理解し、口腔衛生管理に必要な知識・技術を習得する。行動変容支援の理論と技術を理解することで、人に伝達し変容を促す能力の基礎を身につける。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1・2	歯科保健指導論総論	健康日本21(第三次)、健康教育 歯科衛生士法における位置づけ 歯科衛生実践の進め方、口腔の機能
3・4	医療面接の目的 全身の健康状態の把握	医療面接 器質的・機能的問題の把握、服薬状況の把握 生活環境と生活背景の把握、生活習慣の把握 口腔機能の把握、口臭
5・6	コミュニケーションスキル SOAP 形式による実施記録	医療におけるコミュニケーションスキル、 SOAP 作成
7・8	歯科衛生過程の進め方	クリティカルシンキング、ICF 分類 PRECEDE-PROCEED モデル
9・10	行動変容に関連する理論	健康信念モデル、学習理論(オペラント条件付け)、自己効力感、行動変容ステージモデル
11・12	行動変容を促す理論	ストレス・ストレスコーピング、認知行動療法 動機づけ面接
13・14	まとめ①	医療面接・コミュニケーションスキルの活用
15	まとめ②	SOAP 作成

【評価方法】

終講試験 100%

(身だしなみ、忘れ物、提出物(レポート含む)、出欠状況、授業態度 技能習得は別途評価)

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」医歯薬出版

授業名	歯科保健指導論Ⅱ	学年	1 年次 後期
担当講師名	専任教員	単位(時間数)	1 単位(30時間)

■ 授業概要

歯科保健指導は、歯科衛生士にとって重要な仕事の一つであり、幅広く基礎知識及び専門的な知識が必要とされる。

健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を取得する。

■ 到達目標

個人やある特定の集団に対し、地域・社会など生活の場の中で目標達成のために自覚を促し、具体的な方法や行動を見つけ実践できるように助言や援助の技法を身につける。

歯科衛生士が行う歯科保健指導の場と業務を理解する。口腔衛生管理に必要な知識・技術を習得し、人に伝達する能力の基礎を身につける。

回数	テーマ	授業内容
1・2	口腔清掃指導①	口腔清掃の意義 歯ブラシの知識 歯垢染色剤の概要
3・4	口腔衛生状態の指数	口腔清掃状態評価指数の意義 PCR・OHI・OHI-S・PDI・PHP の解説
5・6	口腔清掃指導法②	毛先磨きの基本操作
7・8	口腔清掃指導法③	毛先を用いるブラッシング法の実施 脇腹を用いるブラッシング法の実施
9・10	口腔清掃指導法④	その他の清掃用具 歯磨剤の基本・使用方法
11	仕上げ磨きの方法について	仕上げ磨きの方法と指導の実施
12・13	医療面接と染め出しの実習	医療面接 染め出し 清掃法の指導
14・15	医療面接と歯周病の健康教育	医療面接 歯周病の知識の伝達 清掃方法の指導

【評価方法】

終講試験 100%

(身だしなみ、忘れ物、提出物(レポート含む)、出欠状況、授業態度 技能習得は別途評価)

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学」医歯薬出版

学建書院・オーラルヘルスケア事典 ～お口の健康のために～

授業名	歯科診療補助論Ⅰ	学年	1年次 前期
担当教員名	専任教員	単位(時間数)	2単位(60時間)

■ 授業概要

歯科衛生士にとって歯科診療の補助は臨床における主要な業務のひとつである。 この科目では、歯科医師より委託された患者に対して術者となり直接対面行為を行うことと、歯科診療が行われる場合の介助業務を学ぶ。 歯科医師をはじめとした、デンタルスタッフとの共同動作を歯科医療として円滑・安全に行なうためにはルールが必要であり、原則的な行動パターンを確立しなければならない。 本授業では、各診療の流れに添い、基本知識・技術を修得し、歯科診療補助業務がより良い形で遂行できるよう学んでいく。

■ 到達目標

1) 歯科診療補助業務の歯科衛生士法における法的位置づけを説明できる 2) 歯科診療補助の業務内容と法的解釈を説明できる 3) 診療室の環境、設備について説明出来る 4) 共同動作の概念を説明できる 5) 共同動作のポジショニングが実施できる 6) 印象材の特徴、種類、用途を説明できる 7) 印象材の練和と管理を実施できる 8) 印象採得とその対応を実施できる 9) 歯科用石膏の種類と用途、取扱いを説明できる 10) 歯科用石膏の練和と管理を実施できる 11) 医療安全の概念とその対策を説明できる 12) 主な消毒薬の用途と使用濃度を挙げる 13) 医療廃棄物の取扱いについて説明できる 14) バキュームテクニックの基本を述べる 15) バキュームの基本操作が実施できる

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1 2	歯科診療補助総論 歯科診療室における共同動作	歯科診療補助の概要 歯科衛生士法における法的位置付け 診療の補助の業務内容 歯科診療室の基礎知識(歯科診療の流れ) 歯科ユニット操作 共同動作の基本 術者・補助者・患者のポジショニング 診療時のライティング
3	歯科材料の基礎知識	歯科用石膏と印象材
4 5	石膏の取扱い	普通石膏・硬質石膏・超硬質石膏 石膏練和の手順
6 7	アルジネート印象材 練和①	アルジネート印象材の特徴と練和方法 使用器具 計量 攪拌 練和

8 9	アルジネート印象材 練和②	練和 脱泡
10 11	アルジネート印象材 練和③	脱泡 まとめ 上顎盛り付け
12 13	アルジネート印象材 練和④・復習とまとめ マニキンの設営	下顎盛り付け 実技の復習とまとめ
14 15	自動練和器の取り扱い マニキンを使用した印象採得	自動練和器へのトレー盛りの方法 マニキンへのトレーの試適方法
16 17	マニキンを使用した印象採得①	マニキンを使用したアルジネート印象採得 下顎
18 19	マニキンを使用した印象採得②	マニキンを使用したアルジネート印象採得 上顎
20	医療安全と感染予防①	歯科医療における感染症の概念 歯科医療における感染予防対策 ハイリスク患者の器材の取扱い 滅菌と消毒
21 22	医療安全と感染予防②	滅菌と消毒 清潔と不潔の概念
23 24	医療安全と感染予防③	手指消毒 滅菌前の作業 滅菌後器材の取扱い 医療廃棄物の取扱い
25 26	バキュームテクニック①	バキュームの基本技法 スリーウェイシリンジの基本技法 部位別洗浄
27 28	バキュームテクニック②	フォーハンドテクニック 実技練習
29 30	バキュームテクニック 実技習得	バキュームテクニック 実技習得の確認

【評価方法】

終講試験 100%

(身だしなみ、忘れ物、提出物(レポート含む)、出欠状況、授業態度 技能習得は別途評価)

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 医歯薬出版

「第5版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎」 永末書店

歯科衛生学シリーズ「歯科機器」 医歯薬出版

【使用参考書】

授業名	歯科診療補助論Ⅱ	学年	1年次 後期
担当講師名	専任教員	単位(時間数)	2単位(60時間)

■ 授業概要

歯科衛生士にとって歯科診療の補助は臨床における主要な業務のひとつである。

この科目では、歯科医師より委託された患者に対して術者となり直接対面行為を行うことと、歯科診療が行われる場合の介助業務を学ぶ。

歯科医師をはじめとした、デンタルスタッフとの共同動作を歯科医療として円滑・安全に行なうためにはルールが必要であり、原則的な行動パターンを確立しなければならない。

本授業では各診療の流れに添い、基本知識・技術を修得し、歯科診療補助業務が、より良い形で遂行できるよう学んでいく。

また、歯科診療所だけではなく病院や在宅で出会う有病者に関する知識を身に着ける。

■ 到達目標

- 1) ラバーダム防湿の目的と器具の用途について説明できる
- 2) ラバーダム防湿を実施できる
- 3) 仮封材の種類と所要性質、取扱いについて説明できる
- 4) 仮封材の取り扱いができる
- 5) 合着材の種類と所要性質、取扱いについて説明できる
- 6) 使用に適した合着材の練和ができる
- 7) 連合印象の診療補助について説明できる
- 8) 連合印象の診療補助業務ができる
- 9) コンポジットレジン修復の術式と使用材料について説明できる
- 10) コンポジットレジン修復の補助業務ができる。
- 11) 全身疾患の基礎知識とその患者への対応について説明できる

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1 2	ラバーダム防湿法①	大臼歯
3 4	ラバーダム防湿法②	前歯・小臼歯
5 6	ラバーダム防湿法③	無翼型・多数歯穿孔など
7 8	ラバーダム防湿法 まとめ	ラバーダム防湿法 実技習得のまとめ

9 10	ラバーダム防湿法 確認	ラバーダム防湿法 実技習得の確認
11	仮封材・仮着材 合着材	仮封材・仮着材の基礎知識 仮封とは 裏層とは 合着材の基礎知識 合着とは 接着とは
12 13	仮封材・仮着材	仮封材・仮着材の取り扱い
14 15	合着材	合着材の取り扱い
16 17	仮封材・合着材 まとめ	仮封材・合着材 実技習得のまとめ
18	パステクニック	パステクニックについて
19 20	寒天とアルジネートの連合印象 歯肉排除	寒天印象材の特徴と取り扱い 連合印象の手順(1 回法) 歯肉班所の目的と手順
21 22	ゴム質印象材の連合印象	ゴム質印象材の特徴と取り扱い 連合印象の手順(2 回法)
23 24	コンポジットレジン修復 1 マトリックスバンドリテーナー	隔壁調整について マトリックスバンドリテーナーの操作方法 2 級窩洞修復の手順とアシスタントワーク
25 26	コンポジットレジン修復 2 歯間分離器	歯間分離器の使用方法 3 級、5 級窩洞の手順とアシスタントワーク
27 28	診療補助Ⅱ まとめ	パステクニック 実技習得の確認
29	主な全身疾患とその知識	糖尿病の基礎知識
30	主な全身疾患とその知識	糖尿病の基礎知識

【評価方法】

終講試験 100%

(身だしなみ、忘れ物、提出物(レポート含む)、出欠状況、授業態度 技能習得は別途評価)

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「歯科機器」 医歯薬出版

「第5版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎」 永末書店

内科医から伝えたい 歯科医院に知ってほしい糖尿病のこと 医歯薬出版

授業名	歯科材料	学年	1 年次 前後期
担当講師名	林 達秀	単位(時間数)	1 単位(20 時間)

■ 授業概要

歯科材料の基本とその取り扱い方法を学ぶ。

歯科材料の殆どは半完成品として供給され、練る、混ぜる等の操作後に機能する材料となり、歯科治療に使用される。適切に歯科材料を使用するためにはその性質を十分に理解し、どのような機能を発揮するように歯科材料が設計されているかを熟知する事が重要である。したがって本授業では、各種歯科材料の素材の性質を基本として講義を行ない、その性質をいかに歯科材料に応用しているかについて説明する。さらにそれらの知識を基礎に、歯科材料の取り扱い法について詳述する。

■ 到達目標

歯科材料の種類、用途および、基本的性質について理解する。また、歯科衛生士業務の一つとして頻繁に行う印象材の練和や歯科用セメントの練和などについてはその取り扱い法も熟知する。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1・2	総論：歯科材料の素材と性質	● 歯科材料の取り扱いの概説。 歯科材料の中の無機材料、有機材料、金属材料の分類と、それぞれの性質について理解する。
3	印象材	● 印象材の種類と組成、それぞれの性質について理解する。
4	歯科用石膏	● 歯科用石膏の種類とその性質、操作方法について理解する。
5	歯科用セメント (合着材・仮着材・接着材)	● 歯科用セメントの種類と、それぞれの性質、用途について理解する。 合着と接着の違いを理解する。
6・7	成形歯冠修復材料	● 成形歯冠修復材料の種類、性質について理解する。
8	仮封材	● 仮封の目的、仮封材の種類、用途について理解する。
9	ワックス	● ワックスの種類と性質、用途について理解する。
10	歯科補綴物とその関連材料	● 歯科補綴物の種類、各補綴物作製に必要な材料(歯科用金属材料、義歯床用材料、人工歯材料、歯科用陶材、インプラント材料)とその性質について理解する。 基本的な歯科技工技術(鑄造、CAD/CAM システム、研磨)についても理解する。

【評価方法】

試験 100%

【使用教科書】

「第 5 版 イラストと写真でわかる 歯科材料の基礎」 末永書店

【使用参考書】

授業名	ライフデザイン I (硬質書写)	学年	1年次 前期
担当講師名	菱田 裕美子	単位(時間数)	1単位(30時間) この内以下の項目を含む ・硬筆書写(14 時間) ・アレンジメントフラワー(8 時間) ・アロマセラピー(8 時間)

■ 授業概要

横書きを中心にレポート、ビジネス等に役立つ文章を書き学習する。
文章を書くことの基礎力・読解力・作成力を身に付ける。

■ 到達目標

レポート、ビジネス等の文章、文書を美しく書けるようにする。
自分の意見を文章化できるようにする。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	・ひらがな,カタカナを書く① (単体～語句練習)	・ひらがな,カタカナを書く。 ・プリント(字源)を使い学習する。
2	・ひらがな,カタカナを書く② (単体～語句練習)	・ひらがな,カタカナを書く。 ・プリントを使い学習する。
3	・漢字を書く① (基本点画～字形のバランス) ※小テスト実施①	・漢字(基本点画～字形のバランス) を書く。 ・プリントを使い学習する。
4	・漢字を書く② (字形のバランス～漢字かな 交じり文)	・漢字(字形のバランス～漢字かな 交じり文)を書く。 ・プリントを使い学習する。
5	・氏名の書き方① ・学校名,住所等を書く① ※小テスト実施②	・氏名の書き方～住所練習～ 地名練習を書く。 ・プリントを使い学習する。
6	・氏名の書き方② ・学校名,住所等を書く②	・氏名の書き方～住所練習～ 地名練習を書く。 ・プリントを使い学習する。
7	・履歴書,エントリーシート 語句練習を書く。 ※小テスト実施③	・履歴書,エントリーシート. 語句 練習を書く。 ・プリントを使い学習する。
8	終講試験	終講試験をする。

【評価方法】 終講試験
【使用教科書】 美しく正しい字が書ける横書きペン字練習帳 新星出版社
【使用参考書】 なし

授業名	ライフデザイン I (アレンジメントフラワー)	学年	1 年次 前期
担当講師名	川瀬 里奈	単位(時間数)	1 単位(30 時間) この内以下の項目を含む ・硬筆書写(14 時間) ・アレンジメントフラワー(8 時間) ・アロマセラピー(8 時間)

■ 授業概要及び到達目標

花から得られる癒しの効果が心理的作用を促す仕組みを理解します。

調達しやすい資材を使い、吸水性スポンジを使わないエシカルなフラワーアレンジメント、どんな器でも用意に生けることができる花くばりを指導。花を通して、自分と向き合うことでウェルビーイングと自己肯定感の向上を目指します。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
8 9	花についての基礎知識 ①グラスコップアレンジ ②ミニブーケ制作	・生花やプリザーブドフラワーについて、花全般の知識 ・花の値段や選び方、カットの仕方、色の組み合わせ ・花くばりについてのレクチャー ・透明のグラスに花くばりを制作して生ける ・ブーケ・花束についてのレクチャー ・花くばりに利用した花を使い持ち帰りやすいようにミニブーケを制作
10 11	①身近なもので器を作る ②アロマストーン ③小テストとレポート	・身近なもので器を作るレクチャー ・プラコップとラッピング用紙で器を制作し、前回同様、花くばりでフラワーアレンジメント ・歯科用石膏を使ったアロマストーンのレクチャー ・アロマストーンにドライフラワーの飾りつけ ・おさらいの小テストを提出

【評価方法】

レポート提出、作品評価、小テスト

【使用教科書】

【使用参考書】

授業名	ライフデザイン I (アロマセラピー)	学年	1 年次 前期
担当講師名	朝井 愛子	単位 (時間数)	1 単位 (30 時間) この内以下の項目を含む ・硬筆書写 (14 時間) ・アレンジメントフラワー (8 時間) ・アロマセラピー (8 時間)

■ 授業概要

様々な物・事に興味を持ち、自分自身の考えや生き方を豊かにすることで、他者へも心豊かに親切な受け答えができます。アロマは癒しだけでなく、人の話を聞く力を養えます。医療従事者として豊かな心と他者・自分自身への癒しをテーマに授業に取り組みます。

■ 到達目標

第一にアロマの使い方、そしてアロマセラピーの知識を正しく知る事です。それにより正しいアロマの使い方、向き合い方が導き出せます。香りによる癒しの効果は科学的根拠だけでなく、各々の感受性も重要となります。日常の中で安全に香りを取り入れることができるように、この授業では香りとの向き合い方を学びます。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
12	アロマスプレー作り	・アロマセラピー概要 ・アロマ(精油)とは ・他国でのアロマの認知度・使い方 ・アロマの安全な使い方
13		・精油紹介 ラベンダー、ゼラニウム、スイートマジョラム、マンダリン、ティートリー
14		・自分の好きな香りを知る
15		・実践 アロマスプレー作り ・アロマと自律神経

【評価方法】

試験結果

【使用教科書】

オリジナルテキスト

【使用参考書】

特になし